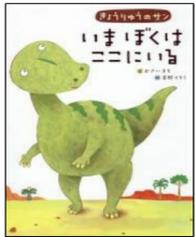
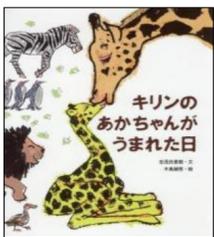


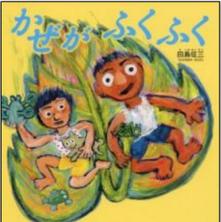
2019年度（令和元年度）

冬休みにおすすめする本

選定 北海道学校図書館協会

選定協力 札幌市学校図書館協議会

	表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 本体価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など
幼児				
1		ゴリラさんだめです キューライス/作・絵 978-4-7816-1793-0	イースト・プレス 2019.6 1,150円+税	だめですよ！ ぜったいだめですよ！ と言っているのに、どんどんやっ ちやうゴリラさん。 うさやまさんは心配でたまりません。
2		ほんだな 新井 洋行/作・絵 978-4-03-102860-8	借成社 2019.6 600円+税	本棚には、おもしろそうな本がいっぱい 「くまくーん」「ばすさーん」 さあ次は何を読もうかな。
3		かわにくまがおっこちた リチャード・T・モリス/著 レウィン・ファム/絵 木坂 涼/訳 978-4-265-85150-8	岩崎書店 2019.8 1,500円+税	昔々、ある所に、川が一本流れていました。 ある日、どっぽーん、川にくまが、落ちこちました。 さあ、一緒に丸太の船に乗り込んで、冒険に出かけよう！ どんどん加速していく川下り冒険絵本。
4		スノーウィとウッディ ロジャー・デュボアザン/作 石津 ちひろ/訳 978-4-7690-2238-1	好学社 2019.8 1,500円+税	シロクマのスノーウィは、野原に花がいっぱい咲いている緑の森に出かけ ました。 そこにいたのは、ヒグマのウッディ、ふたりは仲良くなれるでしょうか。
5		あなあなはてな はらべこめがね/作 978-4-7520-0897-2	アリス館 2019.8 1,300円+税	長い穴、小さい穴、丸い穴。 不思議。どうして、穴が空いているのだろうか。 美味しい食べ物の不思議に気づく絵本です。
小学校・低学年				
1		いまぼくはここにいる きょうりゅうのサン かさい まり/文 星野 イクミ/絵 978-4-7520-0888-0	アリス館 2019.5 1,500円+税	むかわ町穂別で発見された「むかわ竜」がモデルとなった絵本。 「なまむしで、こわがり」のきょうりゅう サン。 時空をこえても引き継がれていく命に、心が温くなる物語。
2		おおゆき 最上 一平/作 加藤 休ミ/絵 978-4-7902-5389-1	鈴木出版 2019.10 1,400円+税	大晦日の朝早く、トイレを借りに女の人がやってきました。 外を見れば1000台もの大渋滞！ 「こりゃ なんぎしているべえ」と、村の人も総出で手助けを始めます。
3		キリンのあかちゃんが うまれた日 志茂田 景樹/文 木島 誠悟/絵 978-4-591-16314-6	ポプラ社 2019.7 1,500円+税	北の動物園のキリンに待望の赤ちゃんができました。 生まれてくるまでの日々を、お父さんキリンのスカイの目線で描いた絵 本。 釧路市動物園がモデル。

4		いっぽんのきのえだ コンスタンス・アンダーソン／作 千葉 茂樹／訳 978-4-593-10031-6	ほるぷ出版 2019.7 1,600円＋税	ゴリラは、杖として木の枝をつかう。 チンパンジーは、スプーンとして木の枝をつかう。 一本の木の枝から見えてくる自然のふしぎ。
5		かぜがふくふく 田島 征三／作 978-4-577-04683-8	フレーベル館 2019.9 1,400円＋税	風が物語になりました。 秋の風によって、葉っぱや木の実、虫が舞う。 豊かな実りの中で風と一緒に、兄妹のネノくんとキフちゃんの心も開放されます。
6		おかしなおきやくさま ペク・ヒナ／作 中川 ひろたか／訳 978-4-05-205104-3	学研プラス 2019.9 1,500円＋税	ある雨の日の屋下がり、姉弟で留守番をしていたら、なにやら迷子らしい変な子どもがやってきて……。 ものすごいおならをしたかと思えば、真っ赤になって怒ったりと大騒動！
7		とんでいったふうせんは ジェシー・オリベロス／文 ダナ・ウルエコッテ／絵 落合 恵子／訳 978-4-86484-152-8	絵本塾出版 2019.9 1,500円＋税	おじいちゃんも僕もみんな風船を持っていた。 風船には思い出がつまっていた、風船を見つめるたびに、大切な思い出がよみがえります。 だけど、おじいちゃんは、どんどん風船をとばしています。 その時、僕は、とんでいった風船を……。
8		ともだちになったミーとチュー ヤンホンイン／文 エレーヌ・ルヌヴー／絵 中 由美子／訳 978-4-901769-87-7	樹立社 2019.7 1,500円＋税	ネズミを見たことのない猫のミーと、猫を見たことのないネズミのチューが、きれいな家で出会い、音楽を通じて友達になっていきます。 リズミカルな文章と細かな絵が楽しい絵本。
9		きょうのぼくは どこまでだってはしれるよ 荒井 良二／著 978-4-14-036135-1	NHK出版 2019.9 1,600円＋税	愛馬「あさやけ」と共に、町のお祝いへ出かけた“ぼく”が出会う、たくさん人の喜びや希望。 毎日が輝いていて、世界がつながっていることを描いている。
10		せかいいちしあわせな クマのぬいぐるみ サム・マクブラットニイ／文 サム・アッシャー／絵 吉上 恭太／訳 978-4-19-864960-9	徳間書店 2019.10 1,600円＋税	60年ほど前にメアリー・ローズという女の子がおづかいをためて買ったクマのぬいぐるみ「ウーウー」は、ある時、置き忘れられ、いろいろな子どもたちの手に渡っていきます。やがて……。
小学校・中学年				
1		金の鳥 ブルガリアのむかしばなし 八百板 洋子／文 さかた きよこ／絵 978-4-7764-0863-5	BL出版 2018.12 1,600円＋税	王に命じられ、三人の王子が美しい金の鳥をさがす旅に出る。 ブルガリアの幻想的な昔話。
2		つらら みずとさむさとちきゅうのちから 細島 雅代／写真 伊地知 英信／文 978-4-591-16107-4	ポプラ社 2019.1 1,500円＋税	ふしぎいっぱい写真絵本シリーズ 36 いろいろな所のできる、つららを写真と文で紹介。 つららを作る実験ページも付いている。

3		<p>ポリぶくろ、1まい、すてた</p> <p>ミランダ・ポール／文 エリザベス・ズーノン／絵 藤田 千枝／訳 978-4-378-04147-6</p>	<p>さ・え・ら書房 2019.2 1,500円＋税</p>	<p>便利で使いやすいポリ袋。 たくさん捨てられると、たくさんのごみになる。 ガンビアの女性アイサトは、そんな状況を自分たちで何とかしようと仲間と共に立ち上がる。</p>
4		<p>てがみのひみつ</p> <p>寺井広樹／原作 ビーゲン セン／文 鈴木 びんこ／絵 978-4-86484-144-3</p>	<p>絵本塾出版 2019.2 1,300円＋税</p>	<p>「かな」は拾った仔犬を大切に育てるが、交通事故で死んでしまう。 悲しい「かな」は手紙を「シロ」に書く。 すると犬小屋の中に手紙が届く・・・。</p> <p>寺井 広樹／原作『ボクと7通のてがみ』</p>
5		<p>すだつきたのかわせみ</p> <p>手島 圭三郎／絵・文 978-4-86484-145-0</p>	<p>絵本塾出版 2019.4 1,300円＋税</p>	<p>暖かい土地に移って生まれたカワセミのひなたち。 水の中を泳げるようになって、魚をとることができるようになって、自分の力で生きていくことができるようになるまでを描いたカワセミ親子の物語。</p>
6		<p>大渋滞</p> <p>いとう みく／作 いつか／絵 978-4-569-78857-9</p>	<p>PHP研究所 2019.4 1,400円＋税</p>	<p>これが最後の家族旅行！？ パパとママのこと、友達のこと、もやもやした気持ちで出かけた妻（3年生の女の子）は、車の渋滞にまきこまれて・・・。 ゆれ動く気持ちを描いた物語。</p>
7		<p>めぐみの森</p> <p>藤原幸一／写真・文 978-4-406-06351-7</p>	<p>新日本出版社 2019.4 1,500円＋税</p>	<p>アジアの森で動物たちが教えてくれたこと、そして先住民たちの知恵。 この本は、私たちに大切なことを伝えてくれる。</p>
8		<p>ひをふくやまとあおいぬま</p> <p>安藤 美紀夫／作 長谷川 知子／絵 978-4-86412-155-2</p>	<p>子どもの未来社 2019.5 1,500円＋税</p>	<p>いつも怒っている山、いつも優しい沼。 山は、沼に結婚を申し込み、断られて火をふきます。 北の国の昔のお話です。</p>
9		<p>こんどこそは名探偵</p> <p>杉山 亮／作 中川 大輔／絵 978-4-03-345450-4</p>	<p>偕成社 2019.5 1,000円＋税</p>	<p>ミルキー杉山といっしょに事件を解決しよう。 人物の話の中にも手がかりやヒントがあります。 3つの事件、解決できるかな？</p>
10		<p>ずっとずっと、ともだちだよ… 病院勤務犬・ミカの物語</p> <p>若月 としこ／著 978-4-265-08317-6</p>	<p>岩崎書店 2019.8 1,300円＋税</p>	<p>大学病院では、日本で初めての試みである「動物介在療法」をおこなう勤務犬ミカの物語。</p>
小学校・高学年				
1		<p>生命のれきし はじめて読む‘進化’の本</p> <p>C・バー& S・ウィリアムズ／文 エイミー・ハズバンド／絵 しまだ ようこ／訳 大越 和加／監修 978-4-86484-153-5</p>	<p>絵本塾出版 2019.6 2,000円＋税</p>	<p>40億年に渡る地球の生命の誕生と進化。 最新の科学に基づいて、やさしい文章と分かりやすい絵で語られる。 青い地球を守ることを考えさせてくれる。</p>

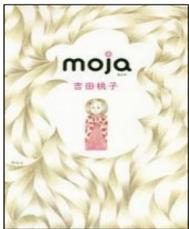
2		ヒロシマ 消えたかぞく 指田 和／著 鈴木 六郎／写真 978-4-591-16313-9	ポプラ社 2019.7 1,650円+税	ヒロシマの原爆で全員亡くなってしまった家族の日常が、たくさんのお父さんの写真からあふれる。 ていねいに構成された頁をめくる毎に、生命の貴さ、日常の素晴らしさ、戦争の無念さが迫ってくる。
3		手紙 ふたりの奇跡 福田 隆浩／著 978-4-06-515581-3	講談社 2019.6 1,400円+税	互いに全く知らない長崎・秋田の小6の穂乃香と耕治。 ひよんなことから文通が始まり、穂乃香の亡き母の若き日の秘密を探っていく。 手紙を書きながら考え行動し、自分たちを見つめていく姿が清々しい。
4		じいじが迷子になっちゃった あなたへと続く家族と戦争の物語 城戸 久枝／著 羽尻 利門／画 978-4-03-645090-9	偕成社 2019.8 1,600円+税	三歳でたった一人中国に残された残留孤児の城戸幹（著者の父）。 中国人の養母と養父に本当の我が子のように育てられた。 二十五年後日本人の両親にも会ってみたいと自力で帰国を果たす。 家族の歴史を語りつぐ一冊。
5		読む喜びをすべての人に 日本点字図書館を創った本間一夫 金治 直美／文 978-4-333-02812-2	佼成出版社 2019.8 1,500円+税	日本点字図書館を初めて創った本間一夫氏の、そこに至るまでの道のり、人生観を著したもの。 北海道増毛出身の一夫少年が周りの人に慈しみ深く育てられ、愛情を「夢を実現する力」に晶華していく様に励まされる。
6		北極と南極の「へえ〜」 くらべてわかる地球のこと 中山 由美／文・写真 秋草 愛／絵 978-4-05-204698-8	学研プラス 2019.8 1,400円+税	南極と北極、寒いのはどっち？ どこの国のもの？ 氷の量はどっちが多い？ など、よく考えると知らないことがたくさん。 おもわず「へえ〜」と言ってしまうような知識がもりだくさん。 それぞれに住む動物の写真や絵も魅力的な1冊。
7		友だちをやめた二人 今井 福子／作 いつか／絵 978-4-580-82379-2	文研出版 2019.8 1,400円+税	1年生から仲良しの七海と結衣。 お互いに相手を大切に思いながら、互いに一步を踏み出せない2人。 人が心を通わせていく微妙な心の揺れ動きは、高学年の子どもたちに響くと思われる。
8		風を切って走りたい！ 夢をかなえるバリアフリー自転車 高橋 うらら／著 978-4-323-06096-5	金の星社 2019.9 1,400円+税	小さな頃から物作りが大好きな堀田健一さん。 息子のために三輪車を作ったことをきっかけに、体の不自由な人でも乗ることができる自転車作りをスタートさせます。 四十年で2600台ものオンリーワン自転車を作り続ける、感動ノンフィクション。
9		シャイローと歩く秋 フィリス・レイノルズ・ネイラー／著 さくま ゆみこ／訳 岡本 順／画 978-4-7515-2940-9	あすなろ書房 2019.8 1,400円+税	1993年刊行の「さびしい犬」（絶版）を新たに訳したもの。 ビーグル犬のシャイローを引き取ることができたマーティだが、元の持ち主ジャド・トラパーズとのトラブルが続く。 皆ジャドを嫌っていたが、彼が事故にあったときに助けを呼んだのは、昔虐待されていたシャイローだった。
10		広重の絵本 遠くへてくてく 結城昌子／構成・文 978-4-09-727707-1	小学館 2019.10 1,500円+税	歌川広重の作品「東海道五十三次」。 あいさつという視点でこの絵をみつめてみると・・・。 子どものために分かりやすくまとめた、あーとぶっくシリーズ14冊目。

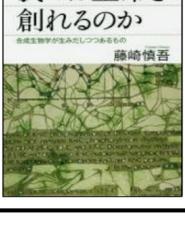
2019年度（令和元年度）

冬休みにおすすめする本

選定 北海道学校図書館協会

選定協力 札幌市学校図書館協議会

	表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 本体価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など
中学校				
1		moja 吉田 桃子／著 978-4-06-515401-4	講談社 2019.5 1,300円+税	毛深く、小学生の頃に「もじゃ」と呼ばれた理沙は、中2になって、ますますコンプレックスを感じている。 それを内緒にすることで友達ともうまくいかなくなる。 その悩みを解決するまでをユーモラスに描く。
2		リスタート ゴードン・コーマン／著 千葉 茂樹／訳 978-4-7515-2939-3	あすなろ書房 2019.7 1,600円+税	屋根から落ちて、記憶喪失になった13歳のチェースは、自分がアメフトのスター選手でとんでもないワルだったらしいと知る。
3		義足と歩む ルワンダに生きる日本人義肢装具士 松島 恵利子／著 978-4-8113-2596-5	汐文社 2019.8 1,500円+税	ルワンダ大虐殺を生きのびて手足を失った人々に、義肢を配布する活動を現地で続けている日本人義肢装具士ルダシングワ真実さんの半生とこれから。
4		父さんはどうしてヒトラーに投票したの？ ディディエ・デニックス／文 PEF／絵 湯川 順夫 & 戦争ホーキの会／訳 978-4-7592-2276-0	解放出版社 2019.7 1,800円+税	少年ルディとその家族が体験したヒトラー政権下のドイツで起きた出来事を描いた本。
5		さわこのじてん 今 美幸／著 今 佐和子／著 978-4-89453-953-2	北海道新聞社 2019.6 1,500円+税	重い障害をもつ娘 佐和子のために、「さわこのことば」を書いたカードは、どんどん増えて、「さわこじてん」となり、15冊目になった。 じてん現役版の実物大ページを紹介。
6		天を掃け 黒川 裕子／著 978-4-06-516169-2	講談社 2019.7 1,500円+税	負傷し陸上競技をあきらめた駿馬は、小惑星の探索に全力を注ぐ、すばる天文部再開を目指す瑠生らと出会い、校舎屋上に天文観測小屋を設置して観測を始めた。 掃天=全天を探索すること。
7		しずかな魔女 市川 朔久子／作 978-4-265-05793-1	岩崎書店 20 1,300円+税	教室になじめない草子は、週4日図書館に通って、独りで勉強している。 司書からもらった<しずかな子は魔女に向いている>というメッセージが気になった草子は、この文章が出てくる本を読みたいと思い、レファレンスを依頼したところ・・・。

8		太陽ってどんな星？ 宮原 ひろ子／作 978-4-406-06367-8	新日本出版社 2019.7 1,500円+税	地球の気候変動は、太陽と密接に関連しているようだ。 南極の氷、巨木の年輪、旧家の日記、様々なデータから読みとく宇宙と私たちの生活のつながりを考察、解明する。
9		飛ぶための百歩 ジュゼッペ・フェスタ／作 杉本 あり／訳 まめふく／イラスト 978-4-265-86029-6	岩崎書店 2019.8 1,400円+税	盲目の少年の葛藤と成長を描く、イタリアの児童文学作品。 (帯より)
10		フラミンゴボーイ マイケル・モーパーゴ／作 杉田 七重／訳 978-4-09-290627-3	小学館 2019.10 1,500円+税	イギリスの少年ヴィンセントが、旅先の南仏のフラミンゴの営巣地で、第二次大戦中の出来事を知る。
高等学校				
1		夢見る帝国図書館 中島 京子／著 978-4-16-391020-8	文藝春秋 2019.5 1,850円+税	帝国図書館の歴史と、そこで紡がれた多くの物語。 そして、現代の二人の女性が図書館で出会う物語が交錯する。
2		ぼくはイエローで ホワイトで、ちょっとブルー The Real British Secondary School Days ブレイディ みかこ／著 978-4-10-352681-0	新潮社 2019.6 1,350円+税	英国在住の著者の息子は、上品でランクの高い小学校を卒業して、元底辺校の中学へ進学。 そこは差別、格差など、なんでもありの世界！ そこで成長してゆく息子と友人たちのワクワク、ドキドキの日常を綴る。実話。
3		水辺のブツダ ドリアン 助川／著 978-4-09-386541-8	小学館 2019.5 1,600円+税	川辺で暮らすホームレス男と都会の間に生きる風俗嬢。 二人の出会いと絶望、共感、邂逅。 「なぜ、私たちはここにいるのか」を問う物語。
4		祝祭と予感 恩田 陸／著 978-4-344-03490-7	幻冬舎 2019.10 1,200円+税	ピアノコンクールを舞台に、才能と運命と青春を描いた『蜜蜂と遠雷』の、スピノフ短編小説集。 『蜜蜂と遠雷』2016年9月 1,800円+税 幻冬舎文庫 (2019年4月 730円+税 上・下巻)
5		我々は生命を創れるのか 合成生物学が生みだしつつあるもの 藤崎 慎吾／著 978-4-06-516778-6	講談社 2019.8 1,100円+税	ブルーバックス B-2103 生命の謎に、「わからないなら創ってみよう」の発想で挑む合成生物学。生命科学の先端を取材し、「いのち」の本質を問う。